

県高校駅伝

5連覇へチーム一丸

経験生かし神島女子

は午前11時半、女子は11時40分にスタートする。男子16チーム、女子9チームが出場。紀南勢では、男子が田辺工業、田辺、南部、女子は神島、南部が出場する。優勝チームは、12月24日に京都市の都大路である全国高校駅伝の出場権を得る。男女とも6位までに入賞したチームは、11月19日に大阪府能勢町である近畿高校駅伝の出場権を得る。

県高校駅伝競走大会(県高校体育連盟など主催)が11月4日、日高川町である。女子の部(5区間21・0975キ)では大会5連覇を目指す神島、男子の部(7区間42・195キ)では初優勝を狙う田辺工業が注目される。

神島の選手は3年生3人、2年生3人、1年生2人の計8人。昨年の全国大会を走った2、3年生がそのまま残った。実力、経験は申し分ない。昨年まで監督を務めた長山丞教諭が春にライバルの和歌山北高校に異動した。4年連続で神島を全国へ導いた監督

の異動に選手らのショックは小さくなかったが、夏合宿を経て一人一人に自主性が芽生え、チームが結束した。外部コーチの芦谷誠さん(38)は「選手主導でチームづくりを進め、夏を越えて成長した。5連覇のプレッシャーを力に変えてほしい」と期



大会5連覇を目指す神島女子チーム(田辺市文里2丁目)

待する。

昨年に続いて主将を務める野村蒼さん(3年)は夏の高校総体の出場をけがで断念した。「去年走ったメンバーがそのまま残っているのもチーム力では負けない。今年はミートインクの回数を増やして意見を言い合い、チームがついにまとまった。本番では笑顔でたすきをつなぎたい」と最後の高校駅伝に懸ける。

初優勝を狙う

田辺工業男子

紀南勢では男子の田辺工業も優勝候補の一角に挙げられている。昨年、部員の人数が少なく県高校駅伝に出場できなかったが、今年は陸上競技



初優勝を狙う田辺工業男子チーム(田辺市あけほの)

の近畿大会での入賞者や団体出場者がいる2年生3人に1年生6人が加わった。鍵は選手層の薄さと経験不足。それをどう克服できるか。陸上競技部顧問で監督の藤井歩教諭(40)は「今のチームがあるのは2年生3人が頑張ってきたおかげ。本番も3人の頑張りがすべて」と期待する。主将の都築勇貴君(2年)は「1年生が入部してからチームに活気が出た。優勝するという気持ちを強く持って大会に臨みたい」と話している。

県高校駅伝競走大会は4日、日高川町田尻の旧川中第一小学校近くの長子橋・小釜本橋周辺コースである。男子